

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人栄光会からすたろうの学び家elua			
○保護者評価実施期間	令和8年2月3日		～	令和8年2月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和8年2月3日		～	令和8年2月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○訪問先施設評価実施期間	令和8年2月3日		～	令和8年2月9日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同法人のこども園のこどもが多いため、相互の情報共有が行いやすい。	・送迎時や月に一度の情報交換会等で、細かい情報共有が可能となり、担任の先生との密な連携がとれている。	・支援内容の充実を図り、諸関係機関と連携をとる中で、当事業所の取り組みやこどもにとっての利点等への理解を深めていただけるよう、今後も努めていきたい。
2	・多機能型の事業所のため、継続的な切れ目のない支援を行うことができる。	・未就学児から就学へと進級しても、信頼関係の構築された職員による対応で安心安全な居場所を提供することができる。 ・同法人母体のこども園で保育士をしていた職員が所属しており、乳幼児からの子どもの様子を知っているため、成長発達の様子を細かく把握し、見守る体制が整っている。	・個々の発達段階や特性に配慮した支援を行えるよう、こどもにとって今何が必要かを見極めてチームで継続的な支援をしていきたい。 ・成人しても、いつでも立ち寄れるような事業所でありたい。
3	・多彩で経験豊富な人材を職員として配置している。	・小学校教諭や高校教諭の経験、また、書きの先生としてのキャリア、陶芸を学んでいる職員など、今までの経験により、発達に特性のあるこどもに対しての接し方の土台ができている為、対応方法の共通理解が、あうんの呼吸である。	・専門性の高いスタッフが相談援助を行うことで安心してご利用いただけるよう、今後もご家庭との関係性を大切にしながら、日々の支援や相談援助を行ってきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・2025年6月1日に第2の事業所として開所したばかりで、障害児福祉サービスの運営に係る事務や様々な提出書類を作成していかなければいけない段階にある。	・手順や役割分担が定着していない状況の為、改善に向けた取り組みを計画中である。	・職員間で業務内容を把握し、優先順位を決め、一つひとつ丁寧に業務を進めていきたい。
2	・近隣にこども園や保育所の数が少ない。	・同法人以外の利用者がいないため、隣町の保育園やこども園へもできる限り声をかけていく必要がある。	・支援内容などの強みを支援プログラムやSNS等で公表し、どんどん宣伝していきたい。
3			